



2021年度上半期の当社連結純利益は、5.006億円と なり、前年同期比+2.481億円増の上期での史上最高 益となりました。歴史的な資源価格高騰が続く中でも、 分野分散されたバランスの取れた経営を心掛け、非資源 分野にも注力してきたことが奏功した結果と考えており ます。連結純利益の2021年度見通しについても7.500 億円に上方修正し、一株当たり配当額は思い切って前期 の88円から22円(期初公表の94円から16円)増配の 110円としました。また併せて、「新配当方針」を公表し ました。今後も株主のみなさまからの声に真摯に耳を 傾け、期待に応える株主還元を実施してまいります。

足元の経営環境は、市況高騰により商社業界全般に 堅調ではありますが、今後は世界的な景気の勢いに一部 陰りが見えることも想定され、気を緩めることができ ない局面が続きます。役員・社員一同、日頃の「商い」 に一層邁進すると同時に、既存の「枠」を超える新たな 施策もしっかり打っていく所存です。今後とも何卒変わ らぬご支援を賜りたくよろしくお願い申しあげます。

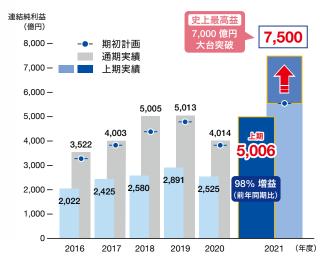
代表取締役会長CEO



上期の連結純利益は過去最高を更新し、 通期見通しを上方修正



代表取締役社長COO 石井 殺太



上期の業績及び通期見通しについて

当第2四半期の当社株主帰属四半期純利益(以下、連結純利益)は、前年同期比2,481億円、98%増益の5,006億円となり、半期としての過去最高を大幅に更新しました。景気の回復を着実に捉えた住生活、機械、第8、情報・金融での基礎収益伸長に加え、資源価格の高騰と資産入替に伴う一過性利益の実現等もあり、全セグメントで前年同期比増益となりました。

また、第2単四半期の基礎収益は、非資源・資源ともに 伸長し、単四半期として過去最高だった第1四半期を更に 上回り、2四半期連続での過去最高を達成しました。

上期の好調な業績を踏まえ、2021年度の通期見通しも期初見通し5,500億円から2,000億円、36%増益の7,500億円に上方修正しました。下期も新型コロナウイルスの感染再拡大や物価上昇による景気停滞等が懸念され、先行き不透明な経営環境が続くことが見込まれますが、「コミットメント経営」を堅持し、「マーケットイン」と「SDGs」を切り口に着実な利益成長を実現すべく全社一丸となって邁進していきます。

♦上期決算について

最新の決算情報は こちら▶



♦配当金について

株主還元方針は こちら



♦注力ビジネスについて

各カンパニー事業紹介は こちら



配当金について

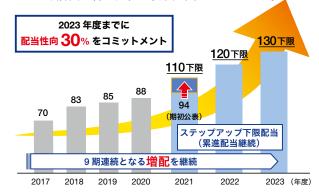
2021年度の一株当たりの配当金は、上期の好調な業績と通期見通しの上方修正を踏まえ、前期の88円から22円(期初公表の94円から16円)増配し、110円を下限として実施します。また、現中計期間中(2021年度から2023年度までの3ヵ年)における新たな配当方針として、累進配当の継続を改めて明示し、9期連続となる増配を継続するとともに、ステップアップ下限配当を再導入します。更には現中計の最終年度である2023年度までに配当性向30%の実施をコミットメントとしてお約束します。

2021年度の中間配当金につきましては、期初公表通り 47円を実施します。なお、自己株式の取得についても

機動的・継続的に実施する方針に変わりありません。

今後も景気耐性のある事業基盤による利益成長を実現

しつつ、着実に株主還元の充実を図ってまいります。



株式会社ファミリーマートの取組について

当社にとって生活消費分野の中核事業であるファミリーマートでは、コンビニエンスストアビジネスの基本である「商品力・利便性・親しみやすさ」を徹底的に強化しております。今年で創立40周年のファミリーマートは、「40のいいこと」と題して様々な企画を実施しており、クリスピーチキンやバタービスケットサンド等の看板商品も生まれました。9月からは自社アプリを活用した金融サービス「ファミペイ翌月払い」を開始し、10月にはプライベートブランドを「ファミマル」としてリニューアルする等、多様化するお客様のニーズにきめ細かく応えていきます。新たな取組とし

ては、新技術を活用した無人店舗の展開に加え、ファミリーマート店舗に大型サイネージ(電子看板)を設置して店舗をメディア化する事業を開始しました。今後サイネージ設置店舗を拡大し、お客様に楽しんでいただけるコンテンツの提供を通して、ファミリーマート店舗への誘客と、メディア

価値の拡大による成長を 目指します。今後もファミリー マートとより一体となり、 消費者に新しい価値を提供 し続けます。



最新情報は こちら▶



統合レポートは こちら▶



新型コロナウイルスワクチンの職場接種を完了

短期かつ集中的に接種を推し進める政府方針に沿い、ワクチンの職場接種に全面的に協力しました。国内企業で最も早い6月21日に接種を開始し、当社社員に加え、本社ビル内の事業会社、警備・清掃等の委託先、事業所内保育所運営委託先の保育士を対象とし、8月末までに希望者約7,700名全員に二度の接種を完了しました。地域医療等への影響を避けるため、当社産業医・看護師・社員ボランティアにより自己完結で運営し、ワクチン廃棄・残余ゼロを達成しました。また、マニュアルや課題等をホームページトで公開し、他の接種会場の運営に役立てていただきました。

接種者総数	約7,700名
(うち、保育士)	約1,500名
ボランティア 社員数	延べ約 850 名
見学企業数 (行政機関等も含む)	23 社
運営マニュアル等 ダウンロード数	約15,000回
※ 0001 年 0 日士吐上	

※ 2021 年 8 月末時点

多様な人材の更なる活躍に向けて「女性活躍推進委員会」を設置

本年10月1日、当社は更なる女性活躍と組織の多様化のため、「女性活躍推進委員会」を設置しました。委員の半数にあたる3名を女性・社外取締役とし、委員長には村木社外取締役を任命しました。取締役会の任意諮問委員会の一つとし



て、経営と一丸となって力強く政策を推進してまいります。当社はかねてより、女性社員を含む多様な人材の拡大・定着に向けた政策を進めてきました。本委員会を通じ、取組に新たな視点を加え、現実的な施策を協議してまいります。多様な価値観が尊重され、すべての社員が能力を発揮できる「厳しくとも働きがいのある」企業風土の醸成を目指します。

すべての現場で光る伊藤忠らしさ

当社社外取締役への就任から5年半が経ちますが、会社の成長と共に、ガバナンスの 実効性も着実に進化しました。「一般株主の皆様の目」である社外役員の意見に真摯に 耳を傾け、施策にしっかり反映する会社の姿勢は年々強くなっています。「現場主義の 追求」・「実行に移すまでのスピード感」が当社の成長を支える強みと感じており、様々な 施策を通じて更なる企業価値向上を目指すとともに、当社らしい強みを発揮し、社会 に貢献できる「面白い何か」を生み出す会社であり続けてほしいと思います。



社外取締役 村木 厚子